

1 次の——線部の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

- (1) 敵を退ける。
- (2) 太陽を拝む。
- (3) 親善試合を行う。
- (4) 単調な毎日だ。
- (5) 資料を提供する。
- (6) 天地ソウゾウの物語。
- (7) 商品のカチが上がる。
- (8) 税金をオサめる。
- (9) カンタンな問題。
- (10) 努力をミトめる。

2 次の文の□に当てはまる言葉をそれぞれ選り記号で答えなさい。

- (1) 今日の夕飯はカレーライスだろうか。□肉じゃがだろうか。
ア なぜなら イ もっとも ウ すなわち エ それとも
- (2) 誰もが彼の優勝を確信していた。□一回戦で敗退してしまっ
た。
ア したがって イ それで ウ さらに エ ところが
- (3) 登校中に忘れ物に気付いた。□私は家への道をもどり始めた。
ア すると イ そこで ウ ところで エ たとえば
- (4) 彼の特技はお菓子作りだという話をきいた。□その腕前はパテ
イシエ並みらしい。
ア しかも イ むしろ ウ つまり エ だから
- (5) 彼女はお金に困ってはいません。□大変裕福な生活をしていま
す。
ア そればかりか イ それから ウ それどころか エ なぜならば

3 次の文の□に当てはまる言葉をそれぞれ選り、記号で答えなさい。た
だし、同じ記号を何度使ってもよい。

- (1) □Aは□Bほどにものを言うというとおり、彼女は私のことを好き
ではないようだ。
- (2) 自分も貯金は多くはないが、□Aに□Bはかえられず、お金を貸す
ことにした。
- (3) 彼の家は通っている学校の校門の近くにあり、まさに□Aと□Bの
先だ。
- (4) しゃべることもやることも達者な□A八丁□B八丁の男だけに、
世渡りが上手い。
- (5) 部活動であまり活躍できず、チームの□A□Bまといになってい
ないか心配だ。

ア 顔 イ 目 ウ 鼻 エ 口 オ 耳
カ 手 キ 胸 ク 腹 ケ 背 コ 足

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。答えをぬき出す問題は、句読点も字数にふくみます。

この三月上旬のある夜、更けるにつれて風がはげしく、すさまじく吹きすさぶ中に、突然サイレンが鳴りひびいた。町じゅうが一度にA 跳びおきた。ひとは勘がするどくなっている。尋常一様のサイレンではない。わたしは空地に駆け出たときには、もうまわりの家々から出て来たむれがいずれも身支度厳重に、早手まわしに荷物を注1待避壕の中にはこびこむものもあつて、しぜん一ところにかたまり合うようなかたちをなしていた。渦まぐ風の音を突つ切つて、ラジオの情報が聞こえる。空地には水道のホースが長く引き出されて、手押しポンプの用意もできた。向こうの下町方面の空が赤くなつて来た。見るまに、その赤さがいちめんに拡がって、距離がぐつと近くなつて、ますます猛り狂う風とともに、手のつけられない火焰の狂いようがまのあたりの空に映り出た。火の手は下町ばかりではない。ついこの近所の、注2七八町とも離れないところに、右にも左にも炎が燃えあがつた。今はここにあつまつたひとびとの顔がはつきり見えるほど、服装の色が見わけられるまでにきまわるく明るい。火の子があたまのうえに舞い落ちて来た。

わたしは注3仮寓の裏手に立つて、そこに置いてある自転車に寄つて待機していた。バケツには水が張つてある。もち出すほどの家財はない。①さいわいこの近くの火事はそう大きくならないように見えた。初期防火がうまく行つたらしく、ごく小部分だけで食い止められそうな模様だが、それでもまだ油断はできない。ふと気がつくと、いつのまにか自転車屋の少女がそばに来ている。わたしのうしろで、背中にぶつかると、自転車の鞍にもたれながら、だまって遠くの空を見上げている。その顔色には火におびえたようなけしきは無いのだが、しかしかすかに肩のふるえているのは②何の不安なのだろう。そのとき、わたしはこの少女の左の足がやっぱり尋常でないのだということをはじめめてさとした。これはもう自転車の操縦に自在をえたところの、いつもの少女ではない。片足のわるい、あわれな娘である。わたしはおのれの技の未熟なこともわすれて、もしか注4危難が迫つたおりには、わたしの唯一の所有品である

古本の注5一からげをみな焼いてしまおうとも、この少女ひとりを助けて、わたしのぼろ自転車にひきのせ、どこまでも走つて行こうと、とたんに決心した。しかし、いい③あんばいに、この決心は実現しないですんだ。明け方までに、附近一帯の火はみな消えた。この空地をめぐる一面にはちとの被害もない。向こうの下町の空に炎の色が次第にうすれて行くのは、夜が明けはなれたせいばかりではないだろう。火はことごとく鎮まつたらしい。防火につとめたひとびとの勝ちである。わたしはB した。

「勝つたわね、おじさん。また自転車のお稽古したげるわよ。」

少女はわたしのそばを離れて、向こう側の家のほうに駆けて行つた。もうたかな足どりで、いつもの、自転車を自在に乗りまわす元の少女に立ちかえっている。④なんだ、こいつ、ひとの気も知らないでと、そうおもいながら、わたしは手をあげて少女のうしろ姿を祝福した。

「勝つたね。また頼むよ。」

わたしは家の中にもどつて、畳のうえにごろりと寝ころんだ。すぐ起きるつもりでいたのが、そのまま眠つてしまつて、眼がさめたときには正午に近かつた。何となく町のけはいがただごとでない。いやに晴れた空がひとをいらいらさせる。明け方にほつとしたきもちはずでにうしなわれて、えたいの知れない不安が身にしみて来る。わたしはC していられなくなって、外に出て、つい自転車で飛び乗つて走り出した。しぜん自転車は下町の方角に、一月元日の朝に参詣した八幡宮のほうにむかつて行つた。

これはわたしの初の遠乗りである。こういう日に、こういうぐあいに遠乗りに出ようとはおもいがけなかった。わたしは自分がうまく走れるかどうかというのを心配するひまもないほど走ることに夢中になって、ズックの古靴をはいた足でやけにペダルを踏んだ。(中略)

わたしはやがて八幡宮の近くに達した。そこで見たもの、またその途中で見たものについて、⑤仔細におもひ出すすがない。ありようは、おもひ出すべきなものもない。かつての八幡宮はそこに無かつた。もはや注6狂歌の出る幕でもない。

わたしは道を乗りもどして、いそいで家にかえって来た。中にはいろいろとしたとき、わたしは服が灰色に見えるほどほこりのいっぱい積もっていることに気づいて、戸口に立ったまま、刷毛をとって肩から払った。とたんに、ぱっと舞い立ったほこりの、そのおに、わたしは⑥息がつまった。ものの焼けるにおいである。ふっと、わたしの眼のまへに浮み出たけしきがあった。それはいましがた道のほとりで見えて来たけしきではなく、それとは関係なしに、ずっと以前物の本で読んだところの、京の鳥野辺のけしきである。春日が照り、空には雲雀が舞っているのに、野にはもの焼く煙がゆらゆらと立ちのぼって、草になびき陽炎にまぎれて行くその煙のにおいが今しみみと、わたしの服のうえにあった。わたしはいつか服を払うことをやめて、刷毛を手をぶらさげながら、しばらく茫として、かぎりなくなしく、そこに立ちすくんだ。

——石川淳「名月珠」より
(漢字・送り仮名を改めた部分あり)

- (注)
- 1 待避壕——砲弾などを避けるために掘った穴。
 - 2 七八町——距離を表す。一町は約一〇九メートル。
 - 3 仮寓——仮に住んでいる家。
 - 4 危難——生命にかかわるような災難。
 - 5 一からげ——ひとまとめ。
 - 6 狂歌——社会風刺や皮肉、滑稽を盛り込んだ和歌。
「わたし」が趣味としている。
 - 7 鳥野辺——京都市の一地域を指す地名。
古くから火葬場があった。

問1 A B C に入る語をそれぞれ次から選び、記号で答え

なさい。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ア | こそつと | イ | むつと | ウ | がくつと | エ | ぱつと |
| オ | ほつと | カ | ぎよつと | キ | じつと | ク | ふらつと |

問2 ——線部①から、主語と述語をぬき出しなさい。

問3 ——線部②「何の不安なのだろう」とありますが、その不安の原因だと「わたし」が考えていることはなにか、「こと。」に続くように十字以内で書きなさい。

問4 ——線部③「あんばい」の意味を次から選び、記号で答えなさい。
ア 売り尽くすこと。 イ 安全なこと。
ウ 予想外な結果。 エ 物事の具合。

問5 ——線部④「なんだ、こいつ、ひとの気も知らないで」とありますが、
が、「わたし」が考えていたことを一文で探し、その始めと終わりの五字を書きぬきなさい。

問6 ——線部⑤「仔細におもい出すすべがない」とありますが、おもい出せない理由を次から選び、記号で答えなさい。
ア その後に見た焼けて無くなった八幡宮があまりに衝撃的だったから。
イ 必死に自転車をこいで走ったことで、疲れがたまってしまったから。
ウ すぐに家に帰ってこなければならぬ用事があり、急いでいたから。
エ 行けば自転車の積古をつけてくれるはずの少女に会えなかったから。

問7 ——線部⑥「息がつまった」とありますが、その理由について説明した次の文の に当てはまる言葉を、 A は漢字一字で、 B と C は本文からぬき出して答えなさい。

ほこりからする物の焼けるにおいから A の気配を感じ取り、以前本で読んだ葬送の地である B のイメージが想起され、 C 思ったから。

問 8 次から本文に合わないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 緊迫した場面では一文が短くなっており、緊張感が伝わってくる。
- イ 登場人物の会話を中心に物語が進むことにより、臨場感がある。
- ウ 心情が直接的に描かれており、感情移入しやすくなっている。
- エ 情景描写が丁寧で、その場の状況が分かりやすくなっている。

⑤ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。答えをぬき出す問題は、句読点も字数にふくみます。

ヒトの赤ちゃんは、生後半年頃からしだいに物へ手を伸ばし始めます。その頃から、大人は、赤ちゃんとのやりとりの中にガラガラなどの物を導入しながら遊ぶようになります。(中略) こうした過程で、赤ちゃんは大人といっしょに物を握りあったり、引つ張りあったりしながら、大人と注意、そして行為そのものを共有する経験を蓄積し、成長していきます。

A、生後九カ月を迎える頃、ヒトの赤ちゃんと大人のコミュニケーションは①劇的な変化を遂げます。たとえば、大人が注意を向けている物や出来事に対し、赤ちゃんも自発的にその視線の先を目で追い始めます。これは、「視線追従」と呼ばれる現象です。視線追従が起こる時期については、さまざまな実験条件、指標により調べられました。B、赤ちゃんが視線の先を追うという行動反応だけでなく、脳波や視線検出などを指標とすると、生後数カ月、さらには新生児の段階ですでに視線追従が確認できるという報告まであります。

しかし、生後九カ月を過ぎると、他者の視線方向をただ自動的、反射的に追っているだけではないことがはっきりしてきます。これまで経験したことのない物や出来事に遭遇した時、母親をはじめとする信頼できる他者とそれらを交互に見比べて情報を得ようとするのです。他者が発する情報に依って、状況に

対処しようとする行動、これを「社会的

参照」といいます。

赤ちゃんが②社会的参照を行うようすを見事に示した研究を紹介しましょう。「視覚的断崖」と呼ばれる実験装置を使った研究です。図5-1のようなガラス張りの大型机のようなものを用意します。その半分には不透明な格子模様がガラスに直接貼りつけてあります。他方、もう半分には何も

貼りつけていないので、ガラスは透明です。その部分の真下の床には格子模様が敷いてありますが、奥行き知覚やハイハイなどの身体運動機能を発達させている赤ちゃんにとっては、透明なガラスの下は③断崖のように見えます。恐怖を感じる場所です。もちろん、ガラスは丈夫なので赤ちゃんが床に転がり落ちることはありません。

アメリカの心理学者、J・キャンボスたちによるこの研究の巧みさは、この次にあります。赤ちゃんを不透明な格子模様場所に置き、母親には透明なガラス部分の向こう側に立つてもらいます。赤ちゃんが母親のもとへ行くには、透明なガラス部分を渡りきらなければなりません。視覚的断崖を感じる赤ちゃんはガラス部分を渡ることをためらい、母親の顔色をうかがうでしょう。その時、もし母親がにっこり微笑んで優しい声をかければ、「X」というメッセージとして受け止めるでしょうし、母親の顔や声が恐怖と緊張でこわばっていたら、崖を渡ることは危険だと受けとめるでしょう。結果は④そのとおりでした。生後一二月の赤ちゃんの七四％は、母親が崖の向こうで安心のシグナルを示した時に崖を渡りました。C、母親が恐怖心のシグナルを示した時には、誰一人崖を渡らなかったのです。この時期のヒトの赤ちゃんは、他者の感情を⑤モニターし、それを利用して自分の行動を調整し始めているといえます。

——明和政子「まねが育むヒトの心」より

(注) 1 蓄積——たくわえていくこと。

2 追従——あとにつき、したがうこと。

3 指標——状況を判断するための目印。

4 参照——他と照らし合わせ、参考にすること。

問1

A

B

C

 に入る語をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ おそらく ウ しかし エ または
オ たとえば カ だから キ さらに ク やはり

問2 ———線部①「劇的な変化」とありますが、それはどのようなものですか。適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 他者が注意を向けていることに対して、自発的に視線の先を目で追
い、安全かどうかを判断しようとする。

イ 自分が経験したことのやことに遭遇したとき、信頼できる他
者とそれらを見比べて、その情報を得ようとする。

ウ 自分が経験したことのやことに遭遇したとき、信頼できる他
者のようすだけを見て、その真似をする。

エ 他者が注意をむけていることに対して、そのものや出来事実際に経
験してみても、情報を集めようとする。

問3 ———線部②「社会的参照」とありますが、どのような行動のことをい
いますか。「く行動。」に続くように二十五字程度でぬき出し、最初と最
後の五字を書きなさい。

問4 ———線部③「断崖のように見えます」とありますが、その理由につい
て説明した次の文の【 】に当てはまるように三十字以内でぬき
出し、最初と最後の五字を答えなさい。

この頃の赤ちゃんは、【 】から。

問5

X

 に入るセリフとして適切なものを次から選び、記号で答えな
さい。

ア 渡っても大丈夫だよ イ 渡らなくていいよ
ウ 危ないから渡らないで エ 危ないけど渡ってみて

問6 ———線部④「そのとおり」とあるが、結果はどうなったのか、適切な
ものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 赤ちゃんの半数以上が、母親が安心を示したときには崖を渡った。
イ 母親が恐怖心を示しても崖を渡った赤ちゃんは数名しかいなかった。
ウ 赤ちゃんの半数以上が、母親が安心させても崖を渡らなかった。
エ 赤ちゃんは、母親が恐怖心を示したときには誰も崖を渡らなかった。

問7 ———線部⑤「モニターし」の意味として適切なものを次から選び、記
号で答えなさい。

ア 試し イ 真似をし ウ 観察し エ 記録し

6

 次のア～ウの中からテーマを一つ選び、条件にしたがって文章を書きな
さい。

テーマ ア 「人の身体について」
 イ 「心に決めたことについて」
 ウ 「印象的な言葉について」

① 氏名や題名は書かず、本文から書き始めること。

② 二段落構成で書き、一段落目にはテーマに関する自分の体験を、二段落目
にはそれについての思いや意見を書く。

③ 二百六十字以上、三百字以内で書く。